

新世紀 クリニック向け自動精算システムに **Acronis Cyber Protect Cloud** を採用、バックアップを可視化

Acronis Cyber Protect Cloudはデータバックアップだけでなく、サイバーセキュリティ、リモートによる管理も統合的に実行することができます。

事業の概要

株式会社新世紀（以下、新世紀）は1994年に設立された東京都文京区に本社を置くソフトウェアの開発やコンサルティングを行う企業です。現在はクリニック向けのソリューションである医療費の自動精算システムの開発・導入支援を中心に事業を展開しています。医療費の自動精算システムは病院では導入が進んでいましたが、全国に約10万施設ある医科クリニックや6万8000施設ある歯科クリニックでは導入が進んでいませんでした。

新世紀では、2015年に導入コストや設置スペース、システム連携などの問題からクリニックでは採用が難しいといわれていた自動精算システムの開発に着手。再来受付・自動精算システム「Clinic KIOSK」、窓口精算システム「Clinic POS」からなるクリニック向け自動精算システムを開発しました。開発されたシステムは、2021年4月段階で全国約800のクリニックに納入され、稼働しています。また新世紀では、自動精算システムの他、診察券発行システム、会計案内表示システムも開発し、クリニック向けに提供しています。

ビジネス上の課題

自動精算システムは患者が診察券をかざすと、電子カルテや医事会計システムからデータを読み取って、当日の請求金額を計算、料金の精算を行い、領収書や診療明細書を発行します。システムは電子カルテや医事会計システムと連携して動作するため、小型のサーバーが組み込まれており、やり取りされたデータや会計結果はサーバーに蓄積される仕組みになっています。「クリニックは診療科ごとに特性が異なり、設置スペースや予算が限られるだけでなく、運用環境も違います。その上に自動精算システムの導入は始まったばかりなので、利用経験がありません。そのため、インストラクター的な役割を担うスタッフを置いて、手厚くサポートして、スムーズに運用できるようにしています」と新世紀 取締役 小山 直人氏は語ります。

自動精算システムを導入することで、患者は会計待ち時間を少なくすることができ、クリニックスタッフは会計処理業務負担を軽減させることができます。そのため、クリニックを運営する上では、自動精算システムの安定的な稼働が欠かせず、万一システムに障害が起き、クラッシュした場合

業種・業態

ITサービス業

主な課題

- 確実なバックアップの取得
- 納入した把握できないバックアップシステムの改善

主な要件

- 完全なバックアップの取得
- リカバリ操作が簡単なこと

ITインフラ

- ローカルでのスタンドアロンシステム

主なメリット

- 完全なシステムバックアップとシステムの復元
- IT操作に習熟していないスタッフでも復元可能な操作性
- バックアップシステムの稼働状態の可視化

でも、リカバリできるようにしておかなければなりません。「本来であれば、一般的なサーバー向けの冗長構成を組むようにするべきです。しかし、予算と設置スペースが限られる中で、そこまでの構成にするのは難しいのです。そこで、バックアップシステムを利用して、トラブルが起きても短時間で復旧できるようにしました」(小山氏)。

そのために、新世紀では、自動精算システムにバックアップデータ保管用のハードディスクを追加し、自前でスクリプトを組んで、1日1回、必要なファイルを圧縮して、ハードディスクにバックアップすることにしました。また一部のシステムはアクロニスのAcronis True Imageを採用して、バックアップを行うことにしました。

ソリューション

自動精算システムのバックアップは、クリニックでローカルに行う形だったため、バックアップが確実に取れているかどうかを管理することが難しいのが実情でした。またハードディスクを追加で接続しなければならないため、費用がかかり、設定にも手間がかかりました。そこで、新世紀ではサポートスタッフでも簡単にリストアが可能なバックアップシステムを導入することにしました。そのために採用したのがアクロニスの「Acronis Cyber Protect Cloud」でした。Acronis Cyber Protect Cloudはエンドポイント、システム、データを保護するためのサイバーセキュリティ、データ保護、管理をネイティブに統合したソリューションで、統合と自動化による保護機能を提供します。

「それまで使っていたAcronis True Imageはコストパフォーマンスもよく、バックアップを確実に取ることができましたし、使い方も簡単でした。その経験があったので、Acronis Cyber Protect Cloudであれば、同じように使い方も簡単だと考えました。またクラウドにデータをバックアップできるので、バックアップ用のハードディスクを追加する必要もないので、コスト面でも好都合です」(小山氏)。

効果と展望

Acronis Cyber Protect Cloudの採用を決めた新世紀では、社内で検証を行った結果、スムーズに運用できることを確認しました。その結果をもとに、クリニックで稼働中の自動精算システムのバックアップシステムについて、Acronis Cyber Protect Cloudにできるだけ早く切り替えると共に、新たに出荷するシステムにも搭載することにしました。

新型コロナの感染拡大で、全国のクリニックで患者との接触機会の削減や、人の手を介さずにお金の受け渡しを行いたいというニーズが高まっています。そのため、自動精算システムの受注が拡大しており、再来受付・自動精算システムと窓口精算システムを合わせて、毎月40～50システムを出荷しています。その中で、Acronis Cyber Protect Cloudを採用したシステムは2021年5月から、クリニックに納入される予定です。

新世紀では、現在Acronis Cyber Protect Cloudをバックアップだけに利用していますが、クリニックのセキュリティに関するニーズも高いため、社内検証を行った上で、サイバースプロテクト機能も利用していく考えです。また、現在ソフトウェアVPNにより行っているリモートサポートも、リモートデスクトップを使って、Acronis Cyber Protect Cloudに切り替えて行く計画です。「今まではバックアップとセキュリティ、リモートサポートの3つを別々に行っていましたが、Acronis Cyber Protect Cloudで3つをセットにして行うことができるようになり、管理負荷が軽減されます」(小山氏)。

さらに現在クリニックで運用中の約800システムも、2021年中を目標に、Acronis Cyber Protect Cloudに切り替えて行く計画です。これによって、現在は納入段階でしかわからないバックアップシステムの状態が可視化され、可用性の高いシステム運用が実現します。新世紀では今後、高まる自動精算ニーズに応えて、Acronis Cyber Protect Cloudを利用した自動精算システムについて、医科向けを中心に歯科、薬局にも提供していく考えです。

「コストパフォーマンスが
よく、操作も簡単なため、
ITの操作に慣れていない
スタッフでも使うことが
できる点を評価しています」

株式会社新世紀
取締役 小山直人氏